



## 「中小企業の付加価値アップ作戦（最近の潮流）」

経済産業省は2016年4月27日に「産業構造審議会 新産業構造部会（第8回）」を開催し、新産業構造ビジョンの中間整理を公表した。

IoT、ビッグデータ、人工知能など、新技術を含むITの利活用により、付加価値の高い製品やサービスの創出が促進されるとしている。この流れは中小企業にとっても大きなチャンスであり、政府は各種施策により中小企業の経営力強化を支援する。

新産業構造ビジョンでは、IT利活用推進により ①大量生産・画一的サービスから、個々のニーズに合わせたカスタマイズ生産・サービスへの移行（個別化医療、即時オーダーメイド服、各人の理解度に合わせた教育）、②社会に眠っている資産と個々のニーズを、コストゼロでマッチング（Uber、Airbnb等）、③人間の役割、認識・学習機能のサポートや代替（自動走行、ドローン施工管理・配送）、④新たなサービスの創出、製品やモノのサービス化（設備売り切りから、センサーデータを活用した稼働・保全・保険サービスへ）、⑤データ共有によるサプライチェーン全体での効率性の飛躍的向上（Industry4.0等）などの付加価値アップの流れが促進されるとしている。

この流れを波及させるためには、こうした成果を広く、大企業から中小企業、中央から地方へと、確実に届けることが必要である。しかしながら、IT利活用については、先進的な取組を行う中小企業が存在する一方、多くの中小企業では費用負担や人材不足などの理由により、あまり進んでいないという現状がある。

新産業構造ビジョンの中間整理では、こうした課題に対応し、中小企業におけるIT導入を促進するために、①専門家派遣（今後2年間で専門家を1万社以上に派遣・導入支援実施）、②業種・企業の垣根を超えた共通システムの整備（国際標準化等）、③事業者のビジネス実態に合わせたIT投資の促進（ネット販売等の販路開拓からIoTやビッグデータを活用した新商品・新サービスの創出に至るまで）といった支援策を講じるという基本的方向性が示されている。一連の支援策を通じて、IT投資の対象を、内部管理業務のITへの置き換えから、販路開拓、企業間連携、製造プロセス、サービス提供方式の改善などの経営力を強化する事業活動への拡大促進が期待される。

急速な技術革新により、産業構造そのものが大きく変化してきている。この局面を的確に捉え、スピード感を持って対応することが、新たな成長フェーズに飛躍するための鍵となる。

（執筆者：Cの会 後藤昌治）

※JRS経営情報の中から、次のコンテンツを参考にしてください。

- 付加価値とは何か①付加価値を様々な角度から見る・・・・・・・・・・ (2015-0977)
  - 付加価値とは何か③付加価値をどこからつくるか・・・・・・・・・・ (2015-0979)
  - 付加価値アップの取り組み例①インダストリー4.0・・・・・・・・・・ (2015-0980)
  - 付加価値アップの取り組み例②IoT・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2015-0981)
  - ビッグデータの動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2013-0648)
- ( )内は情報番号です

なお、お客様にコンテンツを提供される場合には、最初のページに「サンプル」と表示してください。またお探しの情報が不明な場合はご連絡ください。(☎0120-89-0240)